

大学の学生支援における地球科学コンテンツの応用

Geoscience for the university student support programme

桂田 祐介 [1]

Yusuke Katsurada[1]

[1] 名古屋大学相センター

[1] NUCSC

近年、地球科学分野のアウトリーチ活動では、昨今の理科離れ・自然離れへの対策として次世代教育が盛んに行われている。そのなかで、地球科学の自然に対する複合的な視点や、時間・空間の巨視的な視点は、科学や自然に対する興味を喚起するうえで大きな貢献をして来た。一方で、高等教育・研究では、昨今の競争原理や成果主義に翻弄されて学問自体への関心が希薄になる傾向がある。こうした高等教育・研究の現場においては、学生のモチベーションを高め、維持するために、学問の本質である知的好奇心に訴えかけることが必要である。そこで、アウトリーチ活動と同様に、地球科学を通して科学の魅力と重要性をわかりやすく伝え、知的な人間形成を促すことは、次世代を担う子どもたちに対してだけでなく、現代の大学教育の現場においても有効であると考えられる。こうした考えから、名古屋大学学生相談総合センターでは、かならずしも地球科学を専門としていない大学生・大学院生に対しての学生支援のプロジェクトにおいて、地球科学コンテンツを応用する試みを行っている。

名古屋大学学生相談総合センターでは、2007年度に文部科学省が募集した「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択され、「Mes huttes メユット」として大学の潜在的な支援力を結集した学生支援メッシュの構築を目的にした様々な活動を行っている。このプロジェクトで企画されている学生支援メッシュ構築のための個々の活動の目的は、停滞傾向に陥った場合の学業復帰のきっかけづくりや、停滞予防につながる知的好奇心の喚起とリフレッシュの効果である。これらの停滞現象は、学生が大学生活を送るなかで経験する可能性のある現象であり、学生支援の現場においては近年対策が急務となっている。

このプロジェクトでは、複数のグループ活動において、上述の知的好奇心の喚起とリフレッシュを目的として、自然科学のコンテンツを取り入れる試みを行っている。2008年度に実施したもののうち、以下の活動で地球科学のコンテンツを取り扱った。

- 1) 2008年8月 愛知県知多郡南知多町の礫ヶ浦海岸の観察
- 2) 2008年9月 名古屋大学構内に使用されている石材の観察
- 3) 2008年11月 岐阜県郡上市のせせらぎ街道沿いの流紋岩の観察
- 4) 2008年12月 名古屋市内(栄地区)の石材観察
- 5) 2009年3月 名古屋市内(名古屋駅周辺)の石材観察

これらのうち、1および3は、他の内容を主目的にした内容だったが、屋外での活動であるため、補足的に地質露頭の観察を行った。2、4、5については、地球科学をテーマにして身近な石材の観察を行った。参加した学生で、実際に停滞傾向にあった大学院生は、専門分野とは異なるものの、これらの活動で触れた内容についての関心を示し、指導教員に自主的に連絡をとるようになった。また、別の学生は、具体的な専攻を選択する前の段階で停滞していたが、これらの活動を通して古生物学を専攻する希望を口にするようになった。また、停滞はしていないものの、閉塞的な研究活動からの気分転換を求めて参加した学生は、地球科学を含めた自然科学の包括的な視点に触れ、自身の専門分野について大胆な発想をとり入れるきっかけになりそうだと感想を述べた。以上のように、これまで個別の相談が中心だった学生支援のなかに地球科学のコンテンツを応用することによって、学生の停滞予防と停滞からの脱出のきっかけになる効果が期待できる。本報告では、これらの活動の内容について報告する。